

## ◆ 2024 年 度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：大越昆虫館運営委員会

27A-02

代表者：会長 江村 薫

URL :

### 1. 活動が必要とされた状況

大越昆虫館は、令和4年4月埼玉昆虫談話会の有志により新たに設立された団体「大越昆虫館運営委員会」が管理運営している。その目的は、地域の自然環境教育の拠点となる大越昆虫館における諸活動を通し、未来を担う子供たちを対象に昆虫と自然環境に関する普及啓発を行うと共に、地域の自然環境に関する調査研究を推進し、生物多様性の保全や環境学習の促進に寄与するものである。

従来からの諸活動をレベルアップさせるため「大越昆虫館レベルアッププロジェクト」を立ちあげ、助成金申請を行った。

### 2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

- (1) 大越昆虫館の開館：土曜・日曜・祝祭日・埼玉県民の日及び夏休み期間の7月25日から8月12日までの平日に、昆虫標本展示及び生体展示を実施した。
- (2) 自然観察会等のイベントの開催：月1～2回開催（延べ17回実施）
- (3) 埼玉県国際科学研究センターの要請により、通年に亘り、50箱の昆虫標本展示を実施した。また、加須未来館においても、通年で、延べ8箱の昆虫標本展示を実施した。
- (4) 大越地区（昆虫館生態園を含む。）での昆虫生息調査実施：随時
- (5) 昆虫標本の保全管理（防虫剤入替及びカビ除去）の実施：随時
- (6) 新たに、ヤマトタマムシの生体展示に挑戦した。



ヤマトタマムシ生体展示の様子

### 3. 活動の成果

- (1) 夏休み期間の平日開館により、来館者数が増大した。
- (2) イベント実施回数の増加により、来館者数が増大した。
- (3) 標本箱を購入して古い標本箱の廃棄し、昆虫標本の保全管理がレベルアップした。
- (4) ヤマトタマムシの生体展示の連続継続期間が、6月中旬～8月下旬の延べ71日間という記録を達成し、好評を博した。また、来館者が長竿ネットでタマムシを捕獲した。
- (5) パンフレットの部数アップや新たに「広報誌：利根の風」を刊行し、大越昆虫館のPR活動の広がりが実感できた。

### 4. 今後に残された課題

大越昆虫館の諸活動をレベルアップするため、①普及啓発誌の発行、②昆虫館の活動強化のための会員（正・賛助）の増加、③必要資材の確保等が、当面の課題となっている。